

釋親鸞の名のり



あんじょうのごえい
贊親鸞筆（安城御影）

親鸞聖人は、独り仏道修行に励む清僧ではなく、山に獸を追ひ、海に魚を追うことを生業とする、即ち戒律には無縁な民衆と共に、お念仏の法によって救われてゆく生き方をされました。その生きざまの表明が「釋親鸞」の名のりです。

忘れないで！ 「法名」基礎知識

● 「法名」は、生きていく間にいただくものです。

● 「法名」は、「帰敬式」を受式して、

本願寺住職（ご門主さま）からいただきます。

● 「法名」は、「釋〇〇」の二字。

● 「釋」の字は、法名の最初に必ずつけて

お釈迦さまの弟子という意味です。



法名は過去帳に記載します。

浄土真宗本願寺派
「御同朋の社会をめざす運動」
（実践運動）山口教区委員会

〒754-0022 山口市小郡花園町3-7
本願寺山口別院内 TEL (083) 973-4111

法名〈その意味と歴史〉

Q 「法名」と「戒名」は違うのでしょうか？

A 違います。

浄土真宗では、戒名とは言いません。戒名は、厳格な規律（戒律）を守って仏道修行する人々につけられる名前です。法名は、阿弥陀仏の救いの法に信順して生きる私たちがいただく名前です。従って、「法名」には、修行の経歴を表す道号（四字や六字の戒名）や、修行生活の形態を表す位号（信士・信女・居士・大姉等）はありません。「法名」は「釋○○」というただそれだけです。



帰敬式（おかみそり）

Q 「法名」は生前にいただくものであると聞きましたか？

A そのとおりです。

本山で帰敬式を受け、本願寺ご住職（ご門主）から生きている「今」法名をいただくのが本来の形です。帰敬式を受けていない方がお亡くなりになった時は、お世話になっているお寺のご住職から法名をいただきます。



帰敬式でいただく法名

Q 「法名」の起こりを教えてください。

A お釈迦さま在世の頃は、出家剃髪して法衣を着すればみな等しく沙門釈子（この出家者は釈迦の子どもという意）と呼ばれていました。

現在のようない形式の「法名」が生まれたのは、仏教が中国に伝えられてからです。中国では実名の他に別名（字、諱等）を持つ習慣があり、それが仏教に影響を与えたものと思われます。

さらに中国では、最初、出家した者の多くは、師の姓をもって自己の姓としていましたが、東晋時代に、道安という僧は、仏弟子はお釈迦さまのお心を体して皆平等に「釋」をもって姓とすべきであると唱えて、自ら釋道安と名のりました。現在、私たちの宗門で法名を「釋○○」としているのは、ここに由来します。